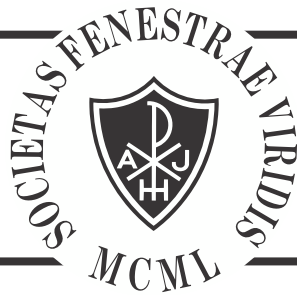


緑窓

第19号



青山学院中等部緑窓会会報
2010年(平成22年)5月1日発行
青山学院中等部緑窓会 発行人 崎田克己
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
電話/FAX 03-3498-5387
E-mail: ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp

設立六十周年を迎えました

中等部緑窓会会長 崎田 克己(十四期)



青山学院の同窓会で最長の歴史を有する中等部緑窓会は、今年設立六十周年を迎える事ができました。しかしこの輝かしい歴史の礎には、戦前から昭和二十三年まで続いた青山学院中学部(男女別学)の苦難の歴史を忘れることは出来ません。現在の緑窓会は紛れもなくこの歴史の延長線上にあり、「原点・祝祭・継続」の合言葉のもと活動しています。

緑窓会の日常業務は同窓生の親睦に資する名簿管理が中心です。この煩雑な作業には大勢の同窓生が毎週ボランティアとしてお手伝い頂いています。また年間行事として六月には内外で活躍する校友をお招きし、「緑窓会の日」として講演会やコンサートを行ない楽しんで頂いていることもご承知の通りです。

更に近年は中等部の運動会、文化祭に卒業生として参加し現役の生徒達を支援し交流を深めています。また対外活動ではタイのハンセン病患者支援のために献金を二十年間続けています。これらは全て緑窓会の活動を支えるボランティアのメンバーが若い世代に交代していったとしても続けていく活動です。

しかし、社会では少子化を背景とした私立学校経営の優勝劣敗が急速に進むと言われています。母校青山学院は、そして中等部の将来は磐石でしょうか。私達はいま一度母校を振り返るため、昨年十一月気賀先生が中等部の礼拝で話された中学部の回想録を、この会報に書き下ろして頂きました。ぜひご精読下さい。母校の原点を改めて知ること、母校を言祝ぎ、次代の新たな活動へと継いで行きたいと考えています。母校の発展に繋がる緑窓会の活動に同窓の皆様のお力をお授け下さい。

第二十一回「緑窓会の日」二〇一〇年六月五日(土)

実行委員長 重光 昭夫(二十一期)

青山学院中等部卒業生の皆さんお元気ですか? 「緑窓会の日」は今年で二十一回目を迎えます。六月五日に開催される「緑窓会の日」には、是非皆様お誘い合わせのうえお集まり下さい。礼拝は、私達が大変お世話になった笹森建美先生が早く説教をお引き受け下さいました。講演は、慶應義塾長の清家篤氏による「高齢化社会を生きる」を予定しております。

清家篤氏は二十一期生として中等部、高等部を卒業後、慶應義塾大学を経て、二〇〇九年より塾長になっておられます。専攻は労働経済ですが、『60歳からの仕事』『高齢者の働きかた』

などの著書も多数出版されています。今の高齢化社会において、極めて興味深い内容です。

この講演に加え、長唄宗家派家元 七世杵屋勘五郎氏(二十一期)及び彼のご子息である二世杵屋廣吉(五十四期)、直光(五十六期)、正則(六十期) 各氏による親子四人の、三味線の演奏が予定されております。

講演と演奏の間には、一時間ほど茶話会を致します。懐かしい恩師や同窓生と共に、第二十一回「緑窓会の日」をお楽しみいただければと思います。皆様是非ご参加ください。

第二十二回「緑窓会の日」講演と演奏の紹介

清家 篤 講演「高齢化社会を生きる」

慶應義塾大学商学部教授、慶應義塾長。博士(商学)。専攻は労働経済学。

青山学院中等部・高等部(二十一期生)、一九七八年、慶應義塾大学経済学部卒業、同大学院商学研究科博士課程修了、同大学商学部助教授を経て、一九九二年より同教授。二〇〇七年より商学部長、二〇〇九年より慶應義塾長。

この間ランド研究所研究員、経済企画庁経済研究所客員主任研究官を歴任。現在、労働政策審議会委員(厚生労働省)などを兼務。近著に『60歳からの仕事』、『エイジフリー社会を生きる』、『高齢者就業の経済学』(二〇〇五年度・第四十八回日経・経済図書文化賞受賞)、『労働経済』など。

青学在学中はラグビー部に在籍。慶應大学進学後も中等部ラグビー部コーチとして、後輩を指導。

杵屋勘五郎 「邦楽今昔」(古典と現代曲)

本名杵家弘和、青山学院初・中・高等部(二十一期生)を経て同大学文学部日本文学科卒業。長唄宗家派家元(七世)。長唄三味線方、長唄宗家六世杵屋勘五郎の長男として生まれ四歳で初舞台、一九六八年廣吉襲名、一九九七年七世勘五郎襲名。

「三徳会」、「六世杵屋勘五郎・廣吉親子会」、「七世杵屋勘五郎長唄五十番」などリサイタル開催。一九九八年、親子三代の襲名披露会、二〇〇九年「芸歴五十年記念演奏会」を催す。

「杵屋勘五郎・廣吉親子会」にて昭和六十三年度、平成元年度、「杵屋勘五郎・廣吉親子会 杵屋廣吉リサイタル」にて平成四年度文化庁芸術祭賞受賞。

二世杵屋廣吉(本名正和、青山学院中・高五十四期生)、直光(光孝、五十六期生) 正則(知徳、六十期生)は勘五郎の子息。

石橋侑佳(琴奏者)は洗足学園音楽大学院生、現代邦楽界新進の実力派演奏家。

演奏曲は「呼応」(現代曲、三味線)、「鳥のように」(現代曲、琴)、「新曲浦島」(古典、長唄)。

第二十回「緑窓会の日」

二十期実行委員長 山田 忠

昨年六月六日第二十回「緑窓会の日」は、たくさんの方々のご協力を頂き素晴らしい一日となりました。緑窓会会長、役員の方々、関係各位、また当日ご参加頂きました皆さまに心から感謝申し上げます。

第一部の青山学院大学宗教学部長 大島力先生の礼拝、そして「高嶋ちさ子十二人のヴァイオリニスト」のコンサートには七〇〇人を超える方々にご参加いただきました。高嶋ちさ子さんとヴァイオリニストの方々の演奏は「観ても、聴いても、美しく、楽しいヴァイオリンコンサート」の通り身近なクラシックの曲目を楽しく聞かせてくださいました。五月十九日の出産後、二週間余りということ、お身体の調子を心配いたしました、大変バワフルで、楽しいトークを交えて会場を沸かせてくださいました。本当にありがとうございました。

コンサート終了後は、二十周年の緑窓会を記念して、青学会館で懇親会が開催されました。二四〇名の方々が一堂に会し、懐かしい先生方もお越しいただき、たくさんのお話に花が咲きました。お楽しみ抽選会では旅行券や会員からご寄付

頂きました素敵な商品が当たり、大喜びされている姿が印象的でした。

久しぶりに学院を訪れた方々も、改めて青山学院の素晴らしさを実感されたことでしょう。卒業後、母校を訪れることも少なくなりますが、同窓会というチャンスに、ぜひ足を運ばれてみてはいかがでしょうか。時の経過がまた違った新しい出会いを与えてくれる事と思います。皆さまとの素晴らしい出会いに心から感謝申し上げます。



中等部運動会 緑窓会賞のタオル

昨年の中等部大運動会は十月十日

に行なわれました。ところが当日はインフルエンザ騒ぎの真っ只中、2年生の2クラスが学級閉鎖で参加できず、急遽半日のプログラムに変更されるなど楽しみにしていた生徒・保護者の方々には悔しい一日になってしまいました。しかしその限られた時間にも生徒達は全力で競技に挑戦し、素晴らしい演技を見せてくれました。緑窓会では青学カラーで中等

部ロゴを織り込んだ今治ブランドの特製スポーツタオル(写真)を特注し、昨年度に引続き各学年優勝の3クラス全員に賞品として贈呈しました。

また十一月七日には中等部文化祭が行なわれましたが、これもインフルエンザのため外来者は入場出来な

い異例の措置となりました。緑窓会では青学会館の校友会会議室に臨時の同窓会室を開き、事情を知らずに来場された卒業生を石出先生のご助力を得ながら応接しました。

今年度の諸行事は無事に出来ることをお祈りするばかりです。



巾20cm長さ110cmの青学カラーのスポーツタオル

緑窓会選出代議員(二〇一二年八月迄)

岩永 晴美(6) 中野 凱美(10)
門田美智子(8) 松田 百代(14)
鳥居 照子(8) 崎田 克己(14)
今村 和久(10) 伊藤 正道(15)

同期会便り

元気印が集つて

六期 岩永はるみ



二〇〇九年七月四日(土) 古稀を迎える六期生が青学会館に久しぶりに集まりました。多賀滯子、伊藤渥子、平間健夫、伊藤哲郎、武田賢三、斎藤美紗絵の先生方と卒業生六十五名。初夏の気持ちよい一夕、毎回出席の常連から、何十年ぶりの人まで、見かけはともかく心は中等部時代にもどつて、楽しいひとときをすごしました。

幹事は海外駐在の同期生・九名にも招待状をだしましたが、その内四名から返信があり、世界各地で活躍している、頼もしい消息が届きました。

また現役で活躍している人。リタイア後、趣味のマラソン、山登りを楽しんでる方など、元気な近況が綴られていて、顔は見えなくても出席者の中

にいるような気がしました。もちろん、同期生の中には、病の床にいる方もいらっしゃいますが、それぞれの友人が支えていることも解り、長い年月のあとでも、中等部での結びつきが固いことを、再認識した宴でした。国内にいる友、遠い外国にいる友の間を繋いでいる糸が今後も切れないことを祈り、家路につきました。

「義は国を高くし、罪は民を恥づかしむ」



箴言14章34節

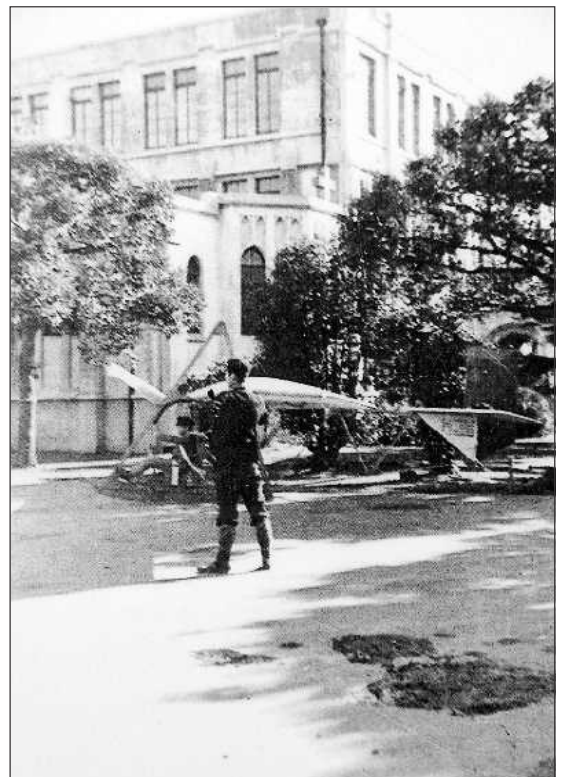
青山学院大学名誉教授 気賀 健生

中等部では十一月十六日の青山学院創立記念日前後の日に、毎年創立記念礼拝をしています。青山学院の創立の精神を振り返ると共に、中等部の成り立ちを生徒たちに知ってもらうため、青山学院と関係の深いクリスマスチャンの方にお説教を依頼しています。

二〇〇九年は、旧制男子中等部の卒業生であり、一時期中等部の教諭もされた気賀先生のお話でした。その内容が中等部の歴史につながる大変興味深い内容でしたので、卒業生の方々にご紹介したいと、気賀先生と中等部長・山本先生のお許しを得て、掲載させていただきます。ぜひお読みください。

今朝は、私は青山学院の歴史のひと駒を生きた、皆さんの先輩の一人ということでお話をしましょう。約六十年も後輩の皆さんに、こうして直接語りかけるのは本当にうれしいことです。私の同級生はさぞ羨むことでしょう。私は一九四〇〜四五五年の五年間、青山学院中学部の生徒でした。当時、旧制中学は五年制で、まさに太平洋日米戦争の全時代を青山学院中学部の生徒として過ごしました。

あの戦争の時代、日本社会はどんな風潮だったのでしょうか。若者にとって、すべては軍隊が基準でした。



校庭ではグライダーの訓練が行なわれた

ということは一切「自由」がなかったということ。 「自由がない」ということを、今日の時代、諸君は想像できますか？ 「自由に」自分の考えを持つことは一切許されませんでした。他人と違うことを考えること、することは「非国民」だったのです。天皇は生きている神様、教育勅語は神聖な教訓、ということ、

トコトンまでつめこまれました。「天皇陛下とお前の信じているというキリストと、どっちがエライか？」という愚劣な問いかけが、私達の前に

日常の如く立ちはだかつていました。そんな時代に、青山学院中学部は

違ったのです。「自由」があったのです。日本中が狂気の風潮の時代、思想の暗黒時代に、どうして青山学院に、青山学院中学部だけに「自由」があったのでしょうか？

それは青山学院の歴史に遡る、つまり、誰によって、何のために青山学院は建てられたのか、ということ

です。諸君は本部の前の記念碑を御覧になりましたか？

ガウチャー、マクレイ、スクーンメーカー、ソーパー。これらの宣教師達は日本にキリスト教を広めるために、他ならぬ青山学院にイエス様



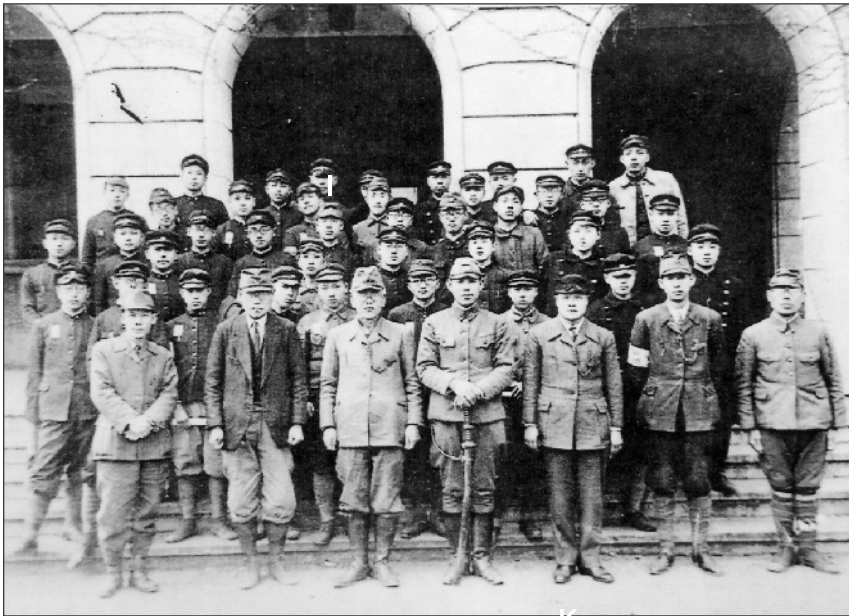
若き日の気賀先生

の言葉を伝えたのです。初代院長マクレイ先生は「日本の宣教は日本人の手で。日本の文明開化は日本人によつて」という固い信念をもっていました。二代院長本多庸一先生はこうおっしゃいました。「他の学校からは学者や新しい学説は幾らも出るであろう。しかし我が輩の学校からはMan（人物）を出さしめよ。Manの資質多くあるべしといえども、Sincerity, Simplicity（誠実・率直）最も大切たるべし」と。「自由・神の自由・本當の自由の根源です。」

私は約六十年間、青山学院中学部で学んだことを誇りとしてきました。誇れないような学校になつては困ります。『青山の学風』を書いた塚本与三郎先生は「学校を良くするのも悪くするのも生徒次第」と言い切つておられます。『青山の学風』を支援、育て、守るのは諸君達、生徒なのです。塚本先生は「青山学院には

教育勅語も軍人勅諭もいらぬ。天皇や宮城遙拝も必要ない。青山にはイエスキリストの『山上の垂訓』がある」と喝破されました。また地理歴史の関屋光彦先生は「いいか、諸君、歴史はこの戦争を正義の戦争と将来見なさないよ」と懇々と諭されました。音楽の石丸泰郎先生は「軍歌や軍歌まがいの国民歌謡ばかり歌っている」と、本當の音楽がわからなくなり「静かに言つてヘンデルの『メサイア』を聴かせて下さいました。田淵清雄先生（通称タブチン）は「良い年をして兵隊ゴッコ（必修教程の軍事教練）なんかに一生涯命になるんじゃないよ。それよりコログの解剖ひとつが学問として大切なのだ」（先生は生物担当でした）と教えられました。要するにこの先生

方、何が人間として大切で、何が狂気、日本の暗黒の実態かを教えて下さったのでした。ここに「本當の自由」があります。私はこの中等部で初代部長古田十郎先生のもとで二年間、教鞭をとっていました。古田先生はあの戦争中、



昭和20年3月、卒業式のこの日だけ母校に勤労働員から帰った記念写真。先生方の服装に注目。

徴用されて南方地域へ軍属として派遣されて日本軍の侵略戦争の実態をつぶさに見てこられ、私達中学生に次の聖句を繰り返して教えられました。「義は国を高くし、罪は民を恥づかしむ」

私はこの聖句を今朝、諸君に贈ります。私はこの約六十年間、この聖句を心に繰り返してきました。あの暗黒時代に青山学院中学部にあつた「神の自由」を指し示す聖句です。

いかがでしたか。礼拝後の気賀先生のお話によりますと、戦後、新制の学校制度になつた時、中等部は十数名の先生でスタートしたそうです。そして、その中心的な先生の六人が、古田十郎先生、田淵清雄先生など、旧制男子中学部の先生方だったそうです。それ故、原稿にある中学部のこの自由な校風は、そのまま中等部に受け継がれたといえます。

若くして中等部に教諭として赴任された気賀先生は、身を以てそのことを体感され、「ああ、この空気は中学部のものだ」と思われたそうです。今まで、見過ごしてきた中等部の歴史ですが、戦争中から、今に受け継がれた青山学院の自由の精神と、それを守つてこられた先生方の力に、今さらながら、驚かされます。

同期会便り

卒業後半世紀?!

十期 浜田やすこ



六年前の還暦記念の同期会から、それぞれが重みある時を過ごして六十六歳となったこの秋、準備会の皆様のご尽力のおかげで同期会が開催されました。

久しぶりに出席した方、アメリカ・台湾から駆けつけてくださった方、九州から駆けつけてくださった方、それはそれは楽しいひと時を過ごすことができました。六十六年間生きてきた人たちの心は広く、世間の荒波を戦い抜いてきた後の穏やかな人生を楽しんでいる皆さんが、幼く若かった中等部時代に戻っていました。私達よりお若くお元気な齊藤先生、武田先生、伊藤先生、平間先生、大槻先生をお迎えし、師であるばかりか人生の先輩として生き様を見習いたいと強く思える再会が出来ました。次の同期会を楽しみに、それぞれが自分の人生を健康で元気に過ごしたいものです。

三十一期同期会

三十一期 林ありき

昨年四月二十五日(土) 青学会館に於き、石出、千輝、佐藤、金子、疋田、真藤、橋本先生の七名の先生方をお迎えし、三十一期の同期会が開催されました。

何といつても卒業以来初めての同期会。先生方にもこの代は集まる事は無いと思われていた三十一期です。どうなる事かと心配もありましたが、皆会えばすぐにその時代に返る事が出来るのが青学生の良い所、楽しい時間を過ごす事が出来ました。当日は佐藤いつ子先生から当時の作文が返却されたり、先生方にスピーチを聞くように叱られたり、中等部時代を昨日の事のように思い出した参加者九十二名でした。



タイでチャンタミット社の活動地を訪問して

六期 田坂興重

毎年、緑窓会の礼拝献金は、タイのチャンタミット社の働きのために捧げられています。

今年の一、好善社の棟居勇理事長のお誘いで、タイ各地のハンセン病患者のコロナーや病院を訪問し、その活動を見てきました。チャンタミット社は、今から二十二年前にクリスチャンの女医カンチャナさん(現理事長)によって始められ、ハンセン病患者の医療や心のケアを含む様々な支援をしてきました。好善社は、その働きを日本から支えてきた団体です。印象深

かったのは、好善社が送った阿部看護師により医療面のケアがなされ、同時に各地のコロナーに教会が建てられて、ハンセン病によって手足の先や視力さえ奪われた患者さんたちが、キリスト教の福音によって希望を持つて生きている姿でした。また日本と違って、タイのハンセン病患者の大半が家族と一緒に生活しており、チャンタミット社が運営するコロナー内の保育園から子どもたちの元気な声が響いていました。こうした活動に緑窓会の献金は用いられています。



ゴルゴダ教会の前で保育園の
子供達、左端 棟居勇理事長



工作中的の阿部看護師



今回訪問したゴルゴダ教会

右：視力や指先を失ったハンセン病患者さんたちが私達の訪問を心から喜んで下さった



中等部便り

★二〇一〇年度人事

部長 山本 与志春
 教頭 山本 節子
 宗教主任 西田 恵一郎
 教研委員長 有賀 実男
 教務委員長 浦田 浩
 指導委員長 敷島 洋一
 三年学年主任 真藤 純一
 二年学年主任 朝野 圭三
 一年学年主任 小田 文信
 事務長 渡邊 哲

★異動(就任)

中沖 麻衣先生 (国語)
 本学院大学文学部を卒業し、就任されました。
 井上 佑貴先生 (社会)
 本学院大学経済学部を卒業し、就任されました。中等部、高等部の五十四期卒業生です。

★年間行事予定

四月八日(木) 入学式
 四月十四日(水)～十六日(金) オリエンテーションキャンプ
 五月二十五日(火)～二十八日(金) 二年生―裏磐梯キャンプ
 三年生―沖縄旅行
 六月九日(水) 三年生―歌舞伎教室
 十月九日(土) 運動会
 十一月六日(土)・七日(日) 中等部祭

★異動(退任)

千輝 克忠先生 (体育)
 一九六七年四月より四十二年間奉職。体操部、バトミントン部等のクラブ顧問を担当。この三月まで教頭を務められました。
 熊倉 佳子先生 (国語)
 二〇〇三年四月より七年間奉職。女子バレーボール部、箏曲部の顧問を担当されました。

その他、次の非常勤講師の方々が退任されました。

岩佐 理恵先生 (国語)
 名取 裕二先生 (社会)
 渡邊さつき先生 (理科)
 小島 麻美先生 (美術)

「緑窓会の部屋」も例年通り開設する予定です。今年は新イベントを企画中です。楽しみにお出かけ下さい。
 十二月十七日(金) クリスマス礼拝
 二月八日(火) 音楽鑑賞
 三月十七日(木) 卒業式

2009 (平成21) 年度収支計算書

自 2009(平成21)年4月1日
 至 2010(平成22)年3月31日

青山学院中等部緑窓会

緑窓会会計報告

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報製作費	742,980	2010年度入会金	816,000
会報送送料	1,214,619	維持会費	1,406,000
事業費(緑窓会の日)	2,598,761	緑窓会の日会費	1,854,000
事業費(20周年懇親会)	1,472,092	20周年懇親会	430,000
事務用品費	255,444	寄付収入	590,000
会議費	180,465	雑収入	4,868
交通費	294,600	預金利息	8,602
水道光熱費	12,000		
通信費	120,678		
消耗品費	19,580		
支払手数料	2,810		
貸借料(コピー機リース)	150,119		
寄付金	220,000		
渉外費	286,439		
雑費	15,206		
本年度支出合計	7,585,793	本年度収入合計	5,109,470
当年度収支差額	-2,476,323	前年度繰越	11,410,838
次年度繰越	9,792,515		

会長 崎田 克己
 副会長 伊藤 正道
 副会長 松元 茂

副会長 西本 由里子
 会計 鳥居 照子
 会計 河合 陽子

監事 田坂 興重
 監事 今村 和久